

# 平成25年度学校自己評価システムシート ( 県立寄居城北高等学校学校 )

目指す学校像	総合学科として特色ある教育活動を展開する中で、将来社会に貢献できる、知・徳・体の調和のとれた人材を育成し、地域から信頼される力のある学校づくりを目指す。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 系列の特性を生かした授業実践を通して、学力向上を図るとともに資格取得を推進する。</li> <li>2 部活動・特別活動等を通して、規律ある態度を身に付け、心身ともに健全な生徒を育成する。</li> <li>3 インターンシップ等の体験活動を通して、進路意識の醸成を図り、適性や希望に応じた進路実現を達成する。</li> <li>4 積極的な情報発信を通して保護者・地域の信頼を得るとともに、意欲ある生徒を確保する。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	
学校関係者	6名
生徒	2名
事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 3 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学習に取り組む姿勢、基礎学力が不十分な生徒がみられる。</li> <li>・様々な興味・関心・適性を持った生徒を生かし伸ばすため、一層の授業改善が必要である。</li> <li>・学力向上の取組が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善による基礎学力定着・向上及び資格取得の奨励</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①チャイム起立・チャイム終了を徹底する。</li> <li>②わかる授業を展開する。</li> <li>③国・数・英の習熟度別指導、選抜クラス・少数クラスでの指導を工夫し学力向上に繋げる。</li> <li>④各学期ごとに校内授業研究週間を実施し授業を改善する。</li> <li>⑤基礎力診断テストを実施する。</li> <li>⑥各教科の工夫により家庭学習をより充実させる。</li> <li>⑦「高校生キャリアアップ&amp;学力アップ推進プロジェクト」を活用する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①チャイム起立・チャイム終了が徹底されたか。</li> <li>②成績不振者が昨年より減ったか。</li> <li>③生徒アンケートで学校全体での満足度が70%を超えたか。</li> <li>④各学期ごとに校内授業研究週間を実施できたか。</li> <li>⑤基礎力診断テストの結果が昨年より上がったか。</li> <li>⑥家庭学習時間が増えたか。</li> <li>⑦朝学習が充実したか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の始業前入室が定着し、授業のメリハリと充実が図られた。</li> <li>・成績不振者は、昨年度と比較して10.8%増加した。</li> <li>・満足度は72.4%であり昨年度より1.6%増加した。</li> <li>・基礎力診断テストを学研Vステップに変更し実施した。</li> <li>・3回校内授業研究週間を実施した。</li> <li>・家庭学習は40.2%の生徒が行っており昨年度より0.3%増加した。</li> <li>・朝学習の有効活用は65.9%だった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上研究週間に保護者の参観を取り入れるなど授業力向上を図る。</li> <li>・学習に小目標設定等により達成感が得られる工夫をする。</li> <li>・資格取得用のプリント学習等、朝学習の有効活用により、基礎力向上を図る。</li> <li>・学習状況や進路状況等、きめ細かく定期的な家庭連絡を行い、家庭学習の必要性を保護者に持たせる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に出て通用する、規律ある行動がとれる生徒の育成が必要である。</li> <li>・生命や人権を尊重する生徒の育成が必要である。</li> <li>・部活動や特別活動、ボランティア活動は活発化してきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識、自己肯定感の高揚及び部活動の振興</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①登下校時に、服装・頭髪、あいさつ、時を守る指導を行う。</li> <li>②月1回、マナー学習を行う。</li> <li>④部活動やボランティア活動への積極参加を呼びかける。</li> <li>④文化祭等の学校行事を充実させる。</li> <li>⑤桜沢小・寄居中との異校種交流を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①服装・頭髪違反生徒数、遅刻生徒数が昨年より減ったか。</li> <li>②生徒指導案件が減ったか。</li> <li>④部活動やボランティア活動参加者が増えたか。</li> <li>④学校行事が充実したか。</li> <li>⑤異校種交流が推進したか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の整容指導より整容意識が78.2%で、昨年より0.8%増加した。</li> <li>・生徒指導件数は昨年度並であった。</li> <li>・道德教育をLHRや学年集会で実施し、生徒の道德意識を高め77.0%になった。(昨年度より0.5%増)</li> <li>・県大出場は8部であった。関東大会は1部、国体は1部が出場した。</li> <li>・個人参加ボラは昨年より増加、全校ボラの学年ごとに校外清掃を実施。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容指導の重点化を図り、共通理解と共通指導を一層充実する。</li> <li>・カウンセリングの研修を実施し、その体制の確立を図る。</li> <li>・三校合同行事や地元警察との連携を一層充実させる。</li> <li>・生徒がボランティア参加しやすい方策を計画・実施する。</li> <li>・部活動支援のため予算の増額に努める。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次に応じた進路意識の未成熟な生徒がいる。</li> <li>・インターンシップが定着してきた反面、受入企業の状況変化がある。</li> <li>・3年次生の進路希望を実現させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年次に応じた進路意識の醸成と3年次生の進路実現</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①キャリア教育の充実を図る。</li> <li>②「産業社会と人間」指導内容を充実させるとともに、インターンシップを円滑に実施する。</li> <li>③3年次生の進路実現に向け、就職・進学指導はもとより企業・上級学校訪問を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各年次に応じた効果的な進路学習が行えたか。</li> <li>②インターンシップが依頼先企業でも評価されているか。</li> <li>③3年次生の進路実現が達成できたか。(目標100%)</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系列別ガイダンスを効果的に活用し進路意識の向上につなげた。</li> <li>・新たに神川町、深谷市でのインターンシップ受入企業が増え、企業からの評判はかなり好調であった。</li> <li>・就職希望者の82%、進学希望者の96%の生徒が進路決定をした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップを足がかりにキャリア教育の充実を図り、進路実現に繋げていく。</li> <li>・企業や上級学校訪問等をして連携を一層深める。</li> <li>・進学・就職補習、小論文・面接指導の充実を図る。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域連携型の総合学科」という特色をより周知させるため、情報発信の工夫や広報活動を一層充実させる必要がある。</li> <li>・自己実現を城北でという意欲ある生徒を募集活動で確保する必要がある。</li> <li>・PTAや地域との連携を一層深める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の多元化による広報活動の充実と入学志願者の確保</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①城北高校だよりを近隣の自治会・学校に配布することにより、教育活動を積極的に発信する。</li> <li>②中学校訪問や塾訪問の積極的な実施と生徒対象の学校説明会を充実し効果的な生徒募集を図る。</li> <li>③HPの更新や、ネットコモンズによる情報発信をより充実させる。</li> <li>④小中高連携や高大連携の積極実施。</li> <li>⑤PTA活動や学校評議員会・学校評価懇話会を機能的に実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校説明会への参加者数が昨年より増加したか。</li> <li>②志願倍率が昨年を上回ったか。(昨年1.04倍)</li> <li>③HPを年75回、学校だよりを年12回公表したか。</li> <li>④小中高連携や高大連携事業を昨年以上行ったか。</li> <li>⑤PTAや評議員会・懇話会の意見が反映できたか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPを年88回以上、「学校だより(城北通信)」を年13回公表した。</li> <li>・学校説明会を6回実施し、参加者数は延べ1133名で、昨年度並だった。</li> <li>・志願倍率1.04倍(1月15日発表)で昨年度と同じであった。</li> <li>・「YJプラン」に基づき教育活動を地域に発信した。</li> <li>・小中高(8回)、高大(9回)の連携事業であり昨年度より増加した。</li> <li>・各種地域行事の参加は昨年度より増加した。(13回)</li> <li>・生徒、保護者の携帯へのメール配信体制の構築と充実を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新情報の提供のためHPの更新を100回以上実施する。</li> <li>・中学生やその保護者などに本校の特徴の理解を深化させる効果的なPRの工夫をする。</li> <li>・小中高、高大の連携事業を積極的に実施する。</li> <li>・各種地域行事の参加を積極的に行う。</li> <li>・外部の意見を聴取する工夫の検討を行う。</li> </ul>

学校関係者評価
実施日平成26年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の個性、可能性を引き出す指導、自信をつけさせる指導、長所を伸ばす指導の継続を期待している。</li> <li>・今年度の「キャリアアップ・学力アップ推進事業の校内研修」「集合研修による校内・他校生徒との意見交換」等を行い、生徒の将来の目的や勉強する意味を再確認した。次年度も継続して欲しい。</li> <li>・生徒保護者対象のアンケートの結果、生徒と教員の関係が良好に向かっている。悩み事を先生に相談する生徒が増加している。生徒から信頼度が向上しているので良い。</li> <li>・生徒保護者の本校の満足度は70%を越えた。更なる向上のための取組をして欲しい。</li> <li>・上級学校でもリメディアル教育を行うケースは多い。基礎学力の定着を期待する。</li> <li>・各学年での進路ガイダンスが充実しており、生徒の進路現の意識付けになっているので今後も継続して欲しい。</li> <li>・学校広報の観点では町報に学校の掲載枠を設定できないだろうか。町立図書館等でのフリーペーパーも含めて、検討して欲しい。</li> <li>・是非保護者対象の研修会を実施して欲しい。合わせて授業外学習時間の指標を検討して欲しい。</li> </ul>